

システム開発の「専門店」12社が集結 金融、産業分野で幅広く強みを発揮

ソルクシーズは、システムインテグレーター（SI）である親会社と、FinTech、IoT、CASEなどさまざまな得意分野を持つ11社の子会社からなる企業グループ。特にFinTechではクレジット、銀行業界で評価が高い。2007年度から21年度の間、売上高は54%増、経常利益は133%増と成長。今期は当期純利益を除き過去最高の業績を計上する見通しだ。

トップに直撃

ソルクシーズ

[4284・プライム]

長尾 章 社長



PROFILE ●ながお・あきら
1955年2月生まれ。東京都出身。83年、トータルシステムコンサルタント設立、取締役就任。88年、合併によりソルクシーズ専務取締役就任。2004年、同社代表取締役専務。05年、同社代表取締役副社長を経て、06年、同社代表取締役社長就任（現任）。

SI関連事業売上が約7割 子会社を応援し共に経営

同社はソフトウェア開発事業をコアビジネスとし、金融系・産業系・インフラ系のシステム開発案件をワンストップで請け負える体制を整えている。21年12月期は、国内の

底堅いデジタル化への投資需要が追い風となり、連結売上高は133.9億2200万円（前期比5.6%増）、営業利益11億500万円（同30.3%増）となった。

売上割合は76%がソフトウェア事業、16%がソリューション事業、8%がコンサルティ

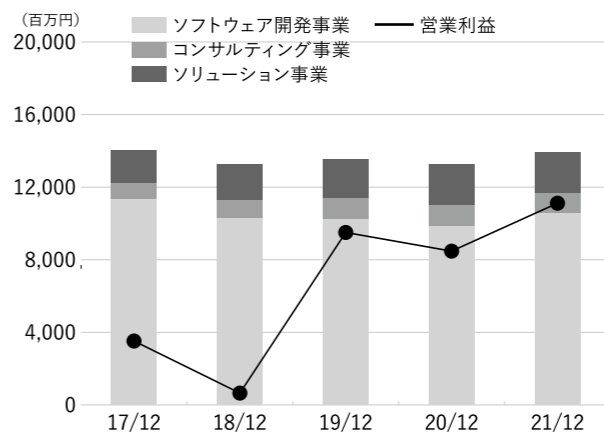
ング事業。業種別売上は、クレジット、銀行、証券などの金融分野が約6割、残り4割が通信、官公庁、製造・流通など産業系となっている（右下円グラフ）。

同社のユニークな点は、親会社の各事業部と11社の子会社それぞれが、業種や業務

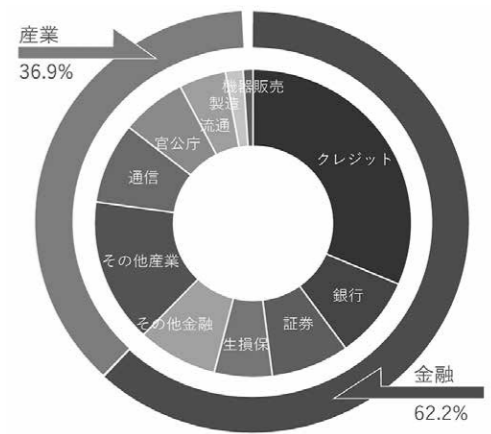
に特化した「専門店」として形成されていることだ。たとえば親会社であるソルクシーズは、SIとしてクレジットや証券のシステム作りを担当。子会社のFSOLも同様に、業務ノウハウを保有している銀行へのサービスに特化。ソルクシーズ自体が、地銀に注力しているSBIグループの傘下にあることから、地銀の業務を多く請け負う。

「当社は投資会社ではなく、子会社を応援しながら一緒に経営をしていく立場です。昔、エンジニアとして一緒に働いていたメンバーが、大きな企業ではやりた

■売上、利益のセグメント別グラフ



■業種別売上



ストックビジネス拡大 海外企業の日本進出支援へ

22年から24年の中期計画の中で同社が注力するのは「本業であるSIビジネスの競争

力強化」と「ストック型ビジネスの強化・拡大」だ。

SIビジネスに関しては、単価が高く利益率の大きい金融分野をさらに強化していく。より上流工程の案件に取り

の企業にも仕事が増える。インバウンドが増えれば担当案件はもっと広がるでしょう」（同氏）

ストック型ビジネスでは、子会社のノイマンが国内シェアの大きい商品を持つ。ノイ

マンは自動車教習所を始めとする教育機関向けソリューション開発・販売を展開。中でも月額料金で提供する自動車学校向けeラーニングシステムは、国内60%強という高いシェアを誇る。15年には運転

免許取得者数が拡大中のベトナムでも事業展開に乗り出した。

「国内で安定的に稼いで、発展性は海外に求める。事業がベトナム全域に広げられた

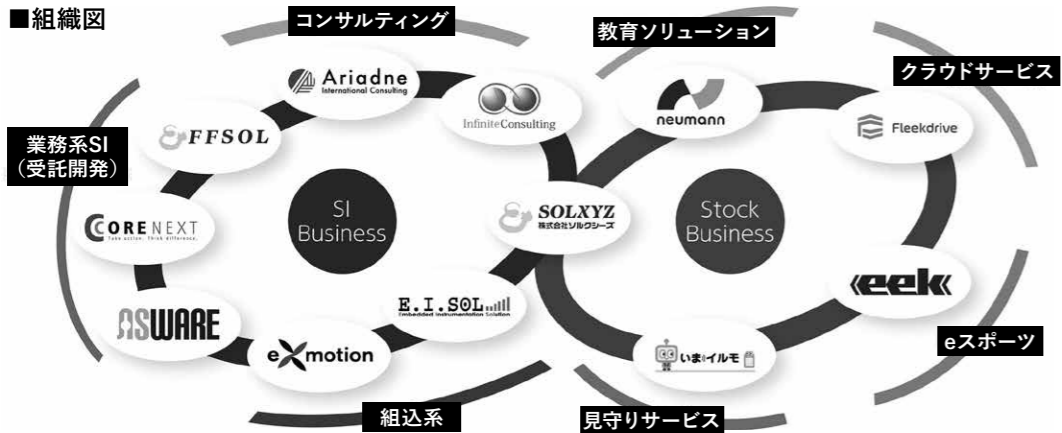
今期は売上高、営業利益2桁増 eスポーツで知名度向上へ

ソルクシーズでは、将来的にストック型ビジネス収益を、SIビジネス収益と同程度まで拡大したいとしている。「これまで年間2億円〜3億円のストック事業への投資

を毎年続けてきた。それが利益に転換するのが来期だと考えています」（同氏）

同社の22年12月期は、売上高が前期比11.3%増、営業利益は同17.6%増と2桁増を予想。売上高、営業利益、経常利益は過去最高を更新する見通しだ。

22年7月には、新規事業として、eスポーツの人材紹介サービスやeスポーツ選手のマネジメントを行うコンサルティング会社eekを立ち上げた。eスポーツ専攻がある専門学校と提携するなど取り組みを推進中で、若い世代にソルクシーズという社名を知ってもらいブランド力の向上を目指す。



「海外企業を含め複数手掛けている。日本でクレジット事業を展開する企業は認可が必要。その許認可取得をサポートする会社です。当然、システムも作らなくてはならないので、グループ内の他

【ソルクシーズ】株式データ

コード	4284	市場	東証プライム
直近株価	374円	(22.11/24終値)	
年初来高値	456円	(22.1/4)	
年初来安値	344円	(22.3/8)	
時価総額	97.9億円		
PER	13.0倍	配当利回り	2.81%
PBR	1.88倍	決算	12月

2021年12月期 連結業績			前期比
売上高	139億2,200万円		5.6%増
営業利益	11億500万円		30.3%増
経常利益	11億2,300万円		12.4%増
当期純利益	10億6,000万円		78.7%増

2022年12月期 連結業績予想			前期比
売上高	155億円		11.3%増
営業利益	13億円		17.6%増
経常利益	13億円		15.8%増
当期純利益	8億5,000万円		19.8%減

